

# 里親に なりませんか？

子どもたちの健やかな成長のために

子どもの成長には、家庭で暮らす時間や経験が  
とても大きな役割を担っています。

ところが今、さまざまな事情で自分の家族と暮らせない子どもたちがいます。  
彼らを自分の家庭に迎え入れ、温かい愛情と正しい理解で  
その成長をサポートする人が、「里親」です。

子どもたちの健全な成長のため、そして明るい未来のために、  
あなたにもできることがあるかもしません。

# 里親になりませんか?

子どもたちの健やかな成長のために

## 里親になることをためらう理由なんて何もないと気づいた



古泉智浩さん  
里親歴2年

新潟県在住。漫画家。代表作は『ジンバルロック』など。著書『うちの子になりなよ ある漫画家の里親入門』がある。

結婚後、長く不妊治療を続けていた古泉智浩さん夫婦が「里親制度」に関心を持つたきっかけは、血の繋がっていない子どもと楽しそうに暮らす友人の存在だったという。

「仲の良い友人親子を見るうちに、血の繋がりだけが親子じゃない、と思うようになりました。同じ頃、里親制度や特別養子縁組を取り上げたテレビ番組を目にして、制度を利用してみないかと妻に話を切り出しました」

はじめは実子にこだわっていた奥さんも、里親制度の研修で訪れた児童養護施設で子どもたちと2日間過ごしたことで考えが変わった。

「どの子も見ず知らずの僕たちにとてもなついてくれて、切なくなるくらい可愛いんです。子どものいる家庭を切望する僕らの目の前に家庭で暮らせない子どもがいるのに、里親になるこ

とをためらう理由なんて何もないじゃないか」と僕も強く思いました」

2014年の冬、生後数カ月の男の子が古泉さんの家にやつてきた。

「子どもが家にいるつて光で照らされているようだなあとと思いました。その状態が今も続いている感じですね。2歳になつたうちの子は今、イヤイヤ期真っ最中。先日もママに向かつて「わかった、わかった、わかったよおー」と、僕の口癖を完璧にコピーリーして言つているので驚きました。『子どもの前でへんな言葉遣いはやめて!』と、僕が逆に妻に叱られました(笑)」

初めての子育てに励む古泉さん夫婦を支えているのは、一緒に暮らす古泉さんのお母さんをはじめ親戚や地元の人々、そして交流を深めている里親の先輩たちだ。

「今、特別養子縁組を希望しているところですが、血の繋がりがないことは自然に認識してほしいので、はじめからオープンしています。それでもうすから。数年後にもう一人くらい子どもを迎えて兄弟を作つてあげたい。それが僕の夢ですね」

とをためらう理由なんて何もないじゃないか」と僕も強く思いました

2014年の冬、生後数カ月の男の子が古泉さんの家にやつてきた。

「子どもが家にいるつて光で照らされているようだなあとと思いました。その状態が今も続いている感じですね。2歳になつたうちの子は今、イヤイヤ期

真っ最中。先日もママに向かつて「わかった、わかった、わかったよおー」と、僕の口癖を完璧にコピーリーして言つているので驚きました。『子どもの前でへんな言葉遣いはやめて!』と、僕が逆に妻に叱られました(笑)」

初めての子育てに励む古泉さん夫婦を支えているのは、一緒に暮らす古泉さんのお母さんをはじめ親戚や地元の人々、そして交流を深めている里親の先輩たちだ。

「今、特別養子縁組を希望しているところですが、血の繋がりがないことは自然に認識してほしいので、はじめから

うな立派な人をイメージする人が多いですが、立派な大人であるより私は日々成長していく子どもの変化に合わせて対応できる柔軟性の方が大切だと思っています。そして、それが子どもの育ちに活かされるように私たちのようなソーシャルワーク機関がお手伝いできることはまだあります

うと奮闘されていますが、子どもが健やかで自分らしい生き方をめざせる子どもが約4万6千人います。施設の方々はそんな子どもたちを支えようとして奮闘されていますが、子どもが健やかで自分らしい生き方をめざせる大人に成長していくためには、やはり地域社会に根ざした本物の家庭、養育里親家庭が必要です」

と話す代表の渡邊守さん。家庭とは、経済状況や時代、政治や文化に左右される脆弱な存在だ。

「だからこそ、家庭で子どもを育てるためには地域社会と繋がる必要があります。そして、悩んだり、迷つたりしながら家庭生活を営んでいる大人の姿を目の当たりにしながら暮らすことで、子どもたちは将来自分が社会

に出て家庭を持った時にどうすべきかを経験として学ぶことができます。ごく当たり前の家庭での風景の積み重ね。それを提供することが、養育里親家庭の大きな役割なのです」

子どもたちの多様なニーズに応えるためには、養育里親家庭にも多様性が必要だという。

「里親」というと、ドラマに出てくるよ

うな立派な人をイメージする人が多

いようですが、立派な大人であるより私は日々成長していく子どもの変化に合わせて対応できる柔軟性の方

が大切だと思っています。そして、それ

が子どもの育ちに活かされるようにやかで自分らしい生き方をめざせる子どもが約4万6千人います。施設の方々はそんな子どもたちを支えようとして奮闘されていますが、子どもが健やかで自分らしい生き方をめざせる大人に成長していくためには、やはり地域社会に根ざした本物の家庭、養育里親家庭が必要です」

## いろんな親子、いろんな家庭を許容できる社会に



渡邊 守さん

里親支援団体／特定非営利活動法人  
キーアセット 代表

北海道生まれ。日本福祉大学卒業。オーストラリアの大学院でソーシャルワークを学んだ後、2010年に里親支援に関する事業を行なう特定非営利活動法人キーアセットを設立。

keyassets

未来を担う子どもたちを支えるための「里親制度」。  
異なる立場の4組の方の体験談とメッセージをご紹介します。

**かぞくの  
カタチ**

未来を担う子どもたちを支えるための「里親制度」。  
異なる立場の4組の方の体験談とメッセージをご紹介します。

子どもが育つには  
いろんな人の  
助けが必要だと思ふ

最初に養育里親としての登録を考えたのは、美恵子さんだった。

「共働きで2人の子育てをしてきましたが、遠方に暮らす母やお隣の方たち、職場の同僚など、いろんな人が手を差し伸べてくれたおかげで育てることができたと思っています。なので、自分たちの子育てがひと段落ついたこれからは、私たちに何かお手伝いできることはないとと思っていた時に、市の広報で里親制度を知りました」

「なんでも言い出したら止まらない人だから」と笑う夫の宗良さんとお子さんたちも賛成し、養育里親に登録。共働きだったため「大きい年齢の子を迎え入れたい」と希望を出して委託されるのを待ったという。

4年後、初めて迎え入れたのは川崎市内の高校進学が決まつたばかりの女の子だった。1人目といふことも

あり「早く慣れて欲しい」「いろんなことを教える」と焦るものの、思うようにコミュニケーションが取れないことがストレスだった、と美恵子さん。

初めてのことだから子どもも私たちもお互いに戸惑いはありましたね。でも僕はそんなに頑張りすぎないでいいんじゃないの? ただここで一緒に暮らせるだけじゃダメなの? と思っていたので、そういう人に言つたんですけど、そんな宗良さんの言葉にハッとしたという美恵子さん。

「大事なのはその子を変えることではなく、受け入れることだと気づきました。家庭生活の中には社会へ出た時に必要な経験がたくさんあります。まずはそれを経験してもらえばいい、と思ったら気がラクになりました」

あれから21年。現在も中学生の男の子と一緒に暮らしている高橋さんご夫婦。これまでに巣立つた子どもたちも遊びに来たり、メールを送つてきたり、と賑やかだ。

「一度でも同じ家で暮らせば『縁』が生まれますから。就職したり、結婚したり、社会で頑張っているあの子たちの姿が今の私たちの励みです」



**高橋宗良さん・美恵子さん**  
里親歴21年

神奈川県在住。平成7年に川崎市の養育里親に登録。中高生を中心に、これまでに共に暮らした子どもの数は18人に及ぶ。

# 子どもたちの未来はみんなの未来。

**いつでも帰れる家、  
なんでも相談できる  
大人がいる幸せ**



**里親家庭で育った  
池田 累さん**

神奈川県在住。9歳で児童養護施設へ。14歳から里親家庭で育つ。高校卒業と同時に独立し、今春、中学時代の同級生と結婚。

「一度でも同じ家で暮らせば『縁』が生まれますから。就職したり、結婚したり、社会で頑張っているあの子たちの姿が今の私たちの励みですね」

高校卒業後は野球部で活躍。高校進学後は部活一色の生活を希望していました。その願いを叶えてくれたのが、今回登場していただいている高橋さんご夫妻だ。当時、高橋さんの家には委託された高校生が3人いて、池田さんは4人目だったという。

「とにかく賑やかで、自然に溶け込めました。野球の朝練や遠征のある僕だけ朝まだ暗いうちにお弁当を作つてもらい、車で学校まで送つてもらつていました。お母さんも働いていたので、時々『疲れた顔をしてるなあ』と思うこともありました。子どもだったのあまり勞い言葉はかけられな

「ずっと施設にいたいという子もいましたが、僕は普通の家庭で暮らしたかった。里親さんの家へ行けることが決まった時はうれしかったですね」と話す池田累さん。小学生の頃からずつと野球に打ち込んできたため、高校卒業後は部活一色の生活を希望していました。その願いを叶えてくれたのが、今回登場していただいている高橋さんご夫妻だ。当時、高橋さんの家には委託された高校生が3人いて、池田さんは4人目だったという。

「とにかく賑やかで、自然に溶け込めました。野球の朝練や遠征のある僕だけ朝まだ暗いうちにお弁当を作つてもらい、車で学校まで送つてもらつていました。お母さんも働いていたので、時々『疲れた顔をしてるなあ』と思うこともありました。子どもだったのあまり勞い言葉はかけられな

「ずっと施設にいたいという子もいましたが、僕は普通の家庭で暮らしたかった。里親さんの家へ行けることが決まった時はうれしかったですね」と話す池田累さん。小学生の頃からずつと野球に打ち込んできたため、高校卒業後は部活一色の生活を希望していました。その願いを叶えてくれたのが、今回登場していただいている高橋さんご夫妻だ。当時、高橋さんの家には委託された高校生が3人いて、池田さんは4人目だったという。

「とにかく賑やかで、自然に溶け込めました。野球の朝練や遠征のある僕だけ朝まだ暗いうちにお弁当を作つてもらい、車で学校まで送つてもらつていました。お母さんも働いていたので、時々『疲れた顔をしてるなあ』と思うこともありました。子どもだったのあまり勞い言葉はかけられな

かたですね」

部活からの帰りには、必ず美恵子さんに「今日の晩ごはんは何?」とメールを送るのが習慣だったという。「部活で疲れて帰った時、灯りがついた家に帰るつていいよなあと思つたことがあります。はじめは『お父さん』『お母さん』と呼ぶのに抵抗があつたのですが、いつの間にかそう呼んでいました。里親さんの家へ行けることが決まりました。はじめては『お父さん』と呼ぶのに抵抗があつたのですが、いつの間にかそう呼んでいました。一緒に過ごした時間がそうさせたのかなあと思います」

高校卒業後の進路についても一緒に悩み、考えててくれた。

「最終的に進学は経済的に無理だから働くこと決めたのは自分ですが、一緒にになって真剣に考えてくれる大人がそばにいたことはありがたかったですね」

高校卒業と同時に一人暮らしを始めた池田さん。「いつでも帰れる実家は高橋の家だけ」と話す。

「結婚が決まって、2人で挨拶に行つた時はとても喜んでくれました。おしゃべりで明るいお母さんと、無口だけどいざという時にビシッと言つてくれれるお父さん。来年子どもが生まれる予定なのですが、高橋家のような、笑顔の絶えない家庭を作りたいですね」

# 里親家庭を募集しています。

里親制度は、健やかな育ちの場を求める“子どものため”の制度です。

里親には迎え入れた子どもの養育費として里親手当、生活費、学校教育費、子どもの医療費などが支給されます。

## 里親の種類

### 養育里親

家族と暮らせない子どもを一定期間、自分の家庭に迎え入れて養育する里親です。

### 専門里親

養育里親のうち、虐待や非行、障害などの理由により専門的な援助を必要とする子どもを養育する里親です。

### 養子縁組を希望する里親

養子縁組によって、子どもの養親になることを希望する里親です。

### 親族里親

実親が死亡、行方不明などにより養育できない場合に、祖父母などの親族が子どもを養育する里親です。

## 里親になるまでのステップ

### 1 相談

里親制度について詳しくご説明いたします。里親についてご理解いただきましたら、ご家族同意の上でお申し込みください。

### 2 調査・研修

児童相談所の担当職員が家庭訪問し、調査を行います。その間、里親制度等に関する研修を受講していただきます。

### 3 審査・登録

児童福祉審議会等での審議を経て里親として認定されると、里親名簿に登録されます。

### 4 更新

養育里親は5年、専門里親は2年ごとに更新研修を受講していただきます。



## もっと知りたい!



### Q.1

#### 里親になるために資格は必要ですか?

所定の研修を受けるなど一定の要件を満たしていれば、特別な資格は必要ありません。欠かせないのは、子どもの養育に対する理解と熱意、そして子どもへの豊かな愛情です。

### Q.2

#### 対象となる子どもはどのような子どもですか?

保護者の死亡、行方不明、傷病による入院または虐待など、さまざまな事情から家族と暮らしなくなった子どもが対象となります。年齢は、原則18歳未満ですが、必要に応じて20歳になるまで対象となります。

### Q.3

#### 里親とは養子縁組のことですか?

里親には養子縁組を前提とする里親や、事情があって家庭で生活できない子どもを一定期間養育していただく養育里親などがあります。里親=養子縁組ではありません。

### Q.4

#### 里親として子どもを迎えるのは、どれくらいの期間ですか?

数年間の委託から、数週間～1年以内の短期委託まで、一人ひとりの子どもたちのニーズと里親をされる方の状況を照らし合わせながらマッチングします。

### Q.5

#### 子育ての経験がなくても、里親にはなれますか?

大丈夫です。里親として子どもを迎えるために必要な知識などは登録前の研修で身につけることができますし、児童相談所の職員などが電話や訪問により疑問や悩みをお聞きして一緒に解決方法を考えます。さらに地域の里親会による支援や交流活動もあります。

### Q.6

#### 共働きでも里親になれますか?

子どもの養育に支障のない範囲での共働きは可能です。また、里親として迎え入れた子どもも、必要に応じて保育所や放課後児童クラブを利用することができます。

里親制度に関心を持たれた方は、お近くの児童相談所にお問い合わせください。

全国児童相談所一覧

検索